

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0790300065		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニー中田(グループホーム)		
所在地	福島県郡山市中田町下枝字久保337-1 (電話)024-993-0770		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.12.15	評価確定日	H21.1.27

【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤10人, 非常勤0人, 常勤換算5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(20,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,350円		

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.1歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢内クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郡山市の中心街より離れた静かな山あいの中にこのホームはある。開設してまだ1年に満たないものの、既に地域の中にとけ込み、地域の一員(仲間)としてしっかりと根付いている感がある。運営推進会議委員のホーム運営への協力を始め、地域の方々の理解や交流(地域の行事に積極的に参加したり、地域の方が野菜を持ってきてくれる等)が円滑であり、利用者はもとより職員も生活(仕事)を楽しんでいる。また、ひとつ同じ屋根の下、併設している小規模多機能型居宅介護事業所との協力関係も含め、まさに地域密着型としての意義・役割を踏まえた実践をしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての調査である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しているが、初めての自己評価ということもあり、職員全員で自己評価結果を検討し、結果を共通認識する取組が不十分である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	2ヵ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、利用者や家族、地域の代表者、地域包括支援センター職員等が委員となり、ホームの運営についての意見交換や地域の情報交換等行い、ホームの理解促進やサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	事業所の相談受付窓口はもとより、外部からの相談窓口も設け、家族等に説明を行っている。また、家族等の面会時や電話等でも意見等を気軽に話せるような雰囲気作りに努め、出された意見等については後回しすることなく、その都度対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の運動会やお祭り、文化祭(作品出展)等に積極的に参加している。さらに近所の方が野菜を持ってきてくれたり、老人会の方が立ちよるなど、ホーム開設当初より地域との交流が盛んである。また、来年度より町内会に加入する予定である。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を始め、全ての職員が地域密着型サービスの意義を理解しており、法人の理念を踏まえつつ、利用者1人ひとりの尊厳を守り、地域の人々とのふれ合いを大切にしたい、分かりやすく具体的なホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々理念に目を通すとともに、月1回の職員会議等で確認をするなどして、理念の共有に努めている。また、法人として独自につくった「行動基準と判断尺度」を用いて、毎月理念に基づいた具体的な取り組みについても確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の運動会やお祭り、文化祭(作品出展)等に積極的に参加している。さらに近所の方が野菜を持ってきてくれたり、老人会の方が立ち寄りなど、ホーム開設当初より地域との交流が盛んである。また、来年度より町内会に加入する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しているが、初めての自己評価ということもあり、職員全員で自己評価結果を検討し、結果を共通認識する取組が不十分である。		今回の自己評価及び外部評価の結果をもとに、職員全員で課題を共通認識した上で、計画的な改善に職員全員で取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで運営推進会議を開催し、利用者や家族、地域の代表者、地域包括支援センター職員等が委員となり幅広い参加がみられ、ホームの運営についての意見交換や地域の情報交換等を行い、ホームの理解促進やサービスの向上に取り組んでいる。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話、広報誌等により利用者一人ひとりの日々の様子について随時報告をしている。また、買い物等お金の使用についてはホームで代行支払いし、月1回請求している。しかし、開設以来職員の異動はないものの、職員の異動等があった場合の家族への報告に関して検討されていない。		職員の異動に関する家族等への報告の大切さを職員共通理解した上で、今後職員の離職や異動があった場合には家族に報告を行ってほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時や電話等でも意見等を気軽に話せるような雰囲気作りに努め、出された意見は後回しすることなく、その都度対応するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動や離職はない。しかし、職員の異動や離職による利用者への影響に対する認識が不十分であるため、異動や離職があった場合の対応や体制作りについて、検討が十分に行われているという状況はない。		今後、職員の異動や離職はあり得ることであり、またそのことによる利用者への影響も十分認識した上で、職員の異動や離職の対応(引継ぎの方法など)について検討してほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員に対しては先輩職員が1ヶ月以上指導・助言をしていくという体制ができている。また法人内の各種研修や外部の研修等、定期的かつ必要に応じて、全ての職員が参加できる体制はできているが、ホーム内での研修報告会で、全職員で情報を共有するような取り組みは行っていない。		外部の研修会等で学んだことを全ての職員間で共有あるいは学び合うということの大切さを理解した上で、職員会議時にその報告会を行ったり内部研修会を行うなどの取り組みについて検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者及び管理者、職員は地域の同業者と交流することの大切さを理解しており、その一つとして「福島県グループホーム連絡協議会」に入会したが、12月に入会したばかりなので、研修会等への参加についてはまだ行われていない。		「福島県グループホーム連絡協議会」に入会したとのことで、今後は積極的に各種研修や活動に参加するなど有効的に活用しながら、ホームのサービスの質の向上に向けた取り組みを進めてほしい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	/	/
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の場面において、一人ひとりの利用者の様々な思いを理解、共感できるよう職員も一緒に過ごすように心掛けている。また、調理の手順や味付け、掃除の仕方などを教えてもらったり、職員側も学ぶべきことが多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等から得られた情報も含め、日常生活での会話や行動、表情などから利用者の思いを推測したり、確認をするなどしている。さらに職員の気づきや検討会議等を通じ、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意見や日常の状況把握、また家族等や関係者の意見を聞き、本人及び家族等を交えた検討会議や職員会議等を通じて、それぞれの意見・意向を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人及び家族等の要望等を日常的に確認しながら、月1回の職員会議で各利用者の介護計画の検討を実施し、原則として3ヵ月に1回定期的な見直しを行っている。また、体調に変化が生じた場合や介護計画の検討の結果によっては、すぐに会議を開催し、随時の見直しも行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居以前にかかりつけ医がいる場合、そのまま継続して受診できるようにしている。なお、受診(通院)は原則として家族等に行ってもらっているが、希望があればホーム側でも対応可能である。また、受診時の情報については必ず家族等と共有し話し合うことにしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、家族等やかかりつけ医等と話し合いを持つように努めているが、具体的な対応や方針等について関係者全員で共有しているという状況には至っていない。</p>		<p>他の事業所の情報を得るなどしながら重度化や終末期に向けた具体的な対応や方針等について、関係者全員で繰り返し話し合いながら共有していくようにしてほしい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者は利用者のプライバシー確保の重要性を職員に繰り返し伝え、意識向上に努めるとともに、排泄や着替え等の日常のケアの場面における対応についてプライバシーへの配慮を徹底している。また、個人情報保護についても全職員が理解しており、適切な取り扱いをしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの思いや希望をしっかり把握しており、入浴や外出(買い物や散歩等)、食べたいもの等、日常のあらゆる場面において一人ひとりのペースや気持ちに配慮した支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も取り入れながら作成しており、ホームの畑でできた野菜を利用したり、買い物や調理、片付け等利用者も交えて行っている。また、職員も利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調に配慮しつつ、一人ひとりの希望や状況に応じた入浴支援が行われており、夜間入浴を希望した場合も対応可能な職員体制になっている。また、檜作りの個人浴槽や大浴槽を設置し、入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの生活歴等の把握をしており、畑での野菜作り、俳句作り、わらじ作り、掃除、ハーモニカ演奏、四季(行事)に応じた作品作り等、その時々のお気持ちに配慮しつつ力を活かした取り組みが行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの希望やその日の気持ちに添いながら、散歩や買い物、ドライブ(空港、菊人形展、足湯等)、同法人運営の特別養護老人ホームで行う各種イベント等へ外出する機会を積極的に設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者を始め、各職員とも勉強会等を通じ鍵を掛けないケアの意味を理解しているが、開設当初より外出傾向の強い利用者がいたことにより、現在においても職員側で危険と判断した場合に限り玄関を施錠することがある。		できる限り鍵をかけないケアが実践できるよう、利用者のその日その時の状態把握や職員の見守りを徹底するなど、どのような工夫や取り組みが考えられるか、今後も引き続きホーム全体で検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、消防署の協力を得ながら、職員が中心となって火災を想定した避難訓練を実施しているが、他の災害を想定した対策や利用者参加の避難訓練、地域住民の協力を得る等、まだ十分にできていない状況にある。		災害はいつ、どのような形で起こるかわからないので、想定される様々な災害や利用者も参加した避難訓練にも取り組んでほしい。また、運営推進会議を活用し地域住民の協力が得られるような取り組みを行ってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分については、おおよその摂取状況を毎回記録している。栄養バランスについては法人内の栄養士の協力を得ている。また、一人ひとりの状態に応じた食形態(キザミ食やトロミをつける等)や食器にも工夫が見られ、安心して食事ができるよう支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共用空間とも、照明の明るさや色調、話し声、テレビの音量等、居心地のよい落ち着いた空間となるよう十分に配慮している。また、キッチン是对面式でそこからの調理の音や香り、季節や行事に応じた利用者と職員共同の作品がさりげなく飾られているなど季節感を十分採り入れた工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ともに利用者本人の使い慣れた家具(タンスやベッド等)や好みの小物類、テレビなどの電化製品を配置したりと、安心して過ごすことができるよう配慮した居室となっている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名

記入担当者名 宗像 亜紀子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。